

令和5年度
総合型選抜入試2期入学試験

基礎学力試験問題

(小論文)

1. 試験時間は、60分です。
2. 問題は、この冊子の1～5ページにあります。問題用紙が解答用紙を兼ねています。
3. 問題や解答を、声に出して読んではいけません。
4. 印刷の不鮮明、用紙の過不足については、申し出てください。
5. 問題や解答についての質問は、原則として受け付けません。
6. 終了の合図があったら、すぐに筆記具を置いて、解答用紙を机の上に伏せてください。
7. この問題用紙は、持ち帰らないでください。
8. 不正な行為があった場合には、解答をすべて無効とします。
9. 答案の文字は、ていねいに、かつ明瞭正確に書いてください。
10. その他、試験の進行については、監督者の指示に従ってください。

植草学園大学 保健医療学部

受験番号		氏名	
------	--	----	--

母子保健は次世代を担う子ども達を健やかに育てるための基盤であり、主に妊産婦への健康指導や乳幼児健診^{注1)}などが実施されている。しかし、子育ての過程において保護者が何らかの育児不安を感じることはめずらしくない。近年、育児に取り組む家庭が孤立し、保護者が感じる育児の困難さが解消されず、それらを抱え込むことが危惧されている。そこで、子育てに取り組む保護者が育児に余裕と自信を持ち、その役割を十分に果たせる社会を構築するために、「健やか親子 21（第2次）^{注2)}」において「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」が重点課題の一つとして取り上げられた。

育てにくさの概念は広く、一部には発達障害^{注3)}等が原因となっている場合も指摘されており、育児上の困難感には、子どもや親の要因、親子関係の要因、支援状況を含めた環境の要因など様々な要素が関係している。近年の乳幼児健診は、疾病リスクの確認だけでなく子育て支援にも重点が置かれ、乳幼児健診に従事する保健師等に対して、育児困難感を抱く親への早期介入や予防的支援の期待が高まっている。また、平成16年制定の発達障害者支援法では、乳幼児健診を行うにあたり発達障害の早期発見に十分留意する必要性が示されており、乳幼児健診を通じた的確な評価と適切な保健指導が求められている。特に法定健診を過ぎた未就学児（4～6歳児）は、集団行動が困難、落ち着きがないなどの発達障害が疑われる行動が顕在化しやすいため、保護者に対し発達障害への気づきを促すことや福祉サービス等へ橋渡しするといった健診事業の役割が重要視されている。

注1) 母子保健法に基づいて全国の市町村が実施する健康診査で、1歳6か月児や3歳児については実施が義務付けられている（法定健診）。それ以外の対象者（3か月児、9か月児、4～6歳児など）には、市町村の裁量にて必要に応じて実施される。

注2) すべての子どもが健やかに育つ社会を目標とした国民運動計画。平成13年に始まり、平成27年から「健やか親子 21（第2次）」が始まっている。

注3) 自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、学習障害（LD）、注意欠如・多動性障害（ADHD）などの脳機能障害のこと。

問題 次の問いに答えなさい。

問1 表1は全国1,739自治体で令和2年度になされた「乳幼児健診の実施状況」である。
表中(ア)に該当する値を求めなさい。小数第2位を四捨五入し小数第1位まで求めること。

() %

問2 図1は「発達障害を知っている国民の年度別割合」であり、「あなたは発達障害について知っていましたか」との質問に対する回答割合が示されている。

平成26年から平成30年にかけて最も割合が減少した回答種別について、平成30年の値は平成26年に比べて何倍かを求めなさい。小数第3位を四捨五入し小数第2位まで求めること。

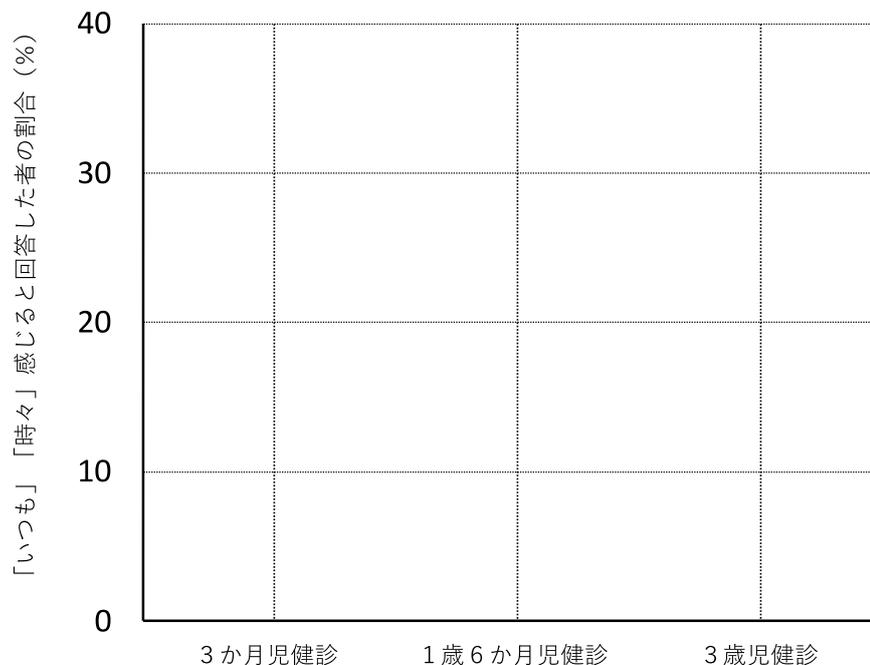
() 倍

問3 表2～4には、3か月児・1歳6か月児・3歳児の各乳幼児健診にて聴取された質問の回答者数が示されている。

- 1) 表2の「子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合」について、表中(イ)に該当する値を求めなさい。小数第2位を四捨五入し小数第1位まで求めること。

(_____) %

- 2) 表3の「育てにくさを感じる親の割合」について、3か月児・1歳6か月児・3歳児の各乳幼児健診において回答者数に占める「いつも」または「時々」感じると回答した者の割合（概数で示している）を下のグラフにプロットし、折れ線グラフを完成させなさい。



- 3) 表4の「育てにくさを感じた時に対処できない親の割合」について、3つの健診の回答者数を合計した全回答者数（421,027人）に占める「いいえ」と回答した者の割合を求めなさい。小数第2位を四捨五入して小数第1位まで求めること。

(_____) %

問4 冒頭の問題文や図表を踏まえ、育てにくさを感じる親に寄り添う支援として、具体的にどのような取り組みが必要であるか。理由とともにあなたの考えを述べなさい。なお、解答は400字以内にまとめなさい。

表1 乳幼児健診の実施状況

健診	実施市区町村数	実施率
2週間児	45	2.6%
1～2か月児	558	32.1%
3～5か月児	1,724	99.0%
6～8か月児	830	47.7%
9～12か月児	1,402	80.5%
1歳6か月児	1,739	100.0%
3歳児	1,739	100.0%
4～6歳児	262	(ア)

出典：令和2年度 母子保健事業の実施状況（厚生労働省）

*出題の都合上、部分的に省略・改変してある。

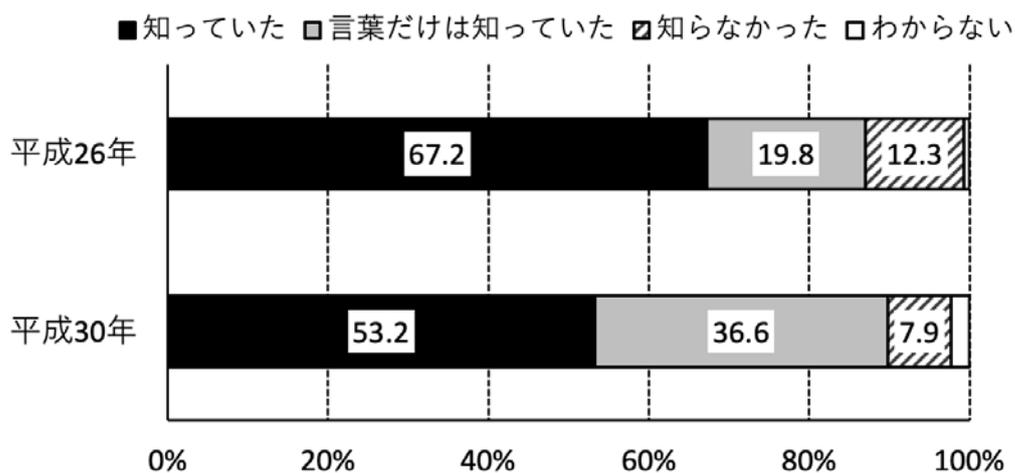


図1 発達障害を知っている国民の年度別割合

出典：平成26年度 母子保健に関する世論調査（内閣府）および平成30年度 「健やか親子21(第2次)」 中間評価を見据えた調査研究報告書（厚生労働省）*出題の都合上、部分的に省略・改変してある。

表2 子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合

(3か月児健診では)	生後半年から1歳頃までの多くの子どもは、親の後追いをすることを 知っていますか。		
(1歳6か月児健診では)	1歳半から2歳頃までの多くの子どもは、何かに興味を持った時に 指さしで伝えようとすることを知っていますか。		
(3歳児健診では)	3歳から4歳頃までの多くの子どもは、他の子どもから誘われれば 遊びに加わろうとすることを知っていますか。		
	3か月児健診	1歳6か月児健診	3歳児健診
はい	553,826人	653,699人	590,671人
いいえ	38,848人	30,259人	113,808人
回答者数	592,674人	683,958人	704,479人
回答者数に占める「いいえ」と 回答した者の割合	6.6%	4.4%	(イ)

表3 育てにくさを感じる親の割合

あなたはお子さんに対して、育てにくさを感じていますか。

	3か月児健診	1歳6か月児健診	3歳児健診
いつも感じる	3,187人	5,908人	11,309人
時々感じる	64,928人	143,596人	210,178人
感じない	551,669人	565,028人	517,584人
回答者数	619,784人	714,532人	739,071人
回答者数に占める「いつも」または 「時々」感じると回答した者の割合 (概数で示している)	10%	20%	30%

表4 育てにくさを感じた時に対処できない親の割合

(前項にて「いつも」または「時々」感じると回答した者に対して)
育てにくさを感じた時に、相談先を知っているなど何らかの解決する方法を知っていますか。

	3か月児健診	1歳6か月児健診	3歳児健診
はい	56,128人	119,299人	184,230人
いいえ	9,399人	23,329人	28,642人
回答者数	65,527人	142,628人	212,872人
回答者数に占める「いいえ」と 回答した者の割合	14.3%	16.4%	13.5%

表2~4の出典：令和2年度 乳幼児健康診査問診回答状況（厚生労働省）
*出題の都合上、部分的に省略・改変してある。

